

アジアの都市と共にグリーンな未来へ

第13回 アジア・スマートシティ会議

13th Asia Smart City Conference



第13回アジア・スマートシティ会議(ASCC)開催のお知らせ

アジアの持続可能なまちづくりに向けて多様なステークホルダーが協議する貴重なこの機会に
皆様の積極的なご参加をお待ちしております！

【第13回ASCC概要】

日時：2024年10月22日（火）、23日（水）、24日（木）

10月22日：海外都市・関連機関関係者 視察ツアー

10月23日、24日：テーマ別セッション、ネットワーキング/ビジネスマッチングイベント

会場：パシフィコ横浜ノース（対面参加のみ）

プログラムの詳細については、[ウェブサイト](#)をご覧ください。

※参加登録方法については、シティネット会員宛に送付された案内をご覧ください。

※CITYNET SDGs分科会セミナーは10月24日（木）のASCCのテーマ別セッションで開催予定です。



13th ASCC Website

今回で13回目を迎えるASCCは、アジアの都市、政府機関、学術機関、民間企業、世界銀行（WB）やアジア開発銀行（ADB）などの国際機関等が一堂に集まる国際会議であり、アジアにおける経済成長と良好な都市環境が両立する持続可能な都市づくりの実現に向けた議論を行うとともに、市内企業の海外ビジネスチャンス創出を目指しています。13回目となる今回は「アジアの都市と共にグリーンな未来へ」をテーマに、基調講演、セッション、ネットワーキングなどを通じて、アジアの脱炭素化と持続可能な都市開発に関する知見やソリューションを共有します。

【問合せ先】

第13回アジア・スマートシティ会議事務局

E-mail: 13th_ascc_secretariat@n-koei.co.jp

E-mail: ki-asca@city.yokohama.jp

【参考】第12回ASCC（2023年開催）のアーカイブ

<https://yport.city.yokohama.lg.jp/promotion/archive>

SDGs推進に向けた取り組みに関するアンケートのお願い

横浜市は、昨年に引き続き、CITYNET会員を対象に、SDGs推進に向けた取り組みや課題を把握するためのアンケート調査を実施します。この調査結果は、第13回ASCCのネットワーキングイベントにおいてCITYNET会員の皆様と共有するとともに、会員同士のパートナーシップ強化、都市間協力の可能性の検討、SDGs分科会の活動の向上及びその他の国際協力の機会の模索に活用します。CITYNET正会員およびSDGs分科会会員（正会員、準会員、法人会員）の皆様におかれましては、アンケートへの回答に御協力をお願いいたします。アンケートは[こちらのフォーム](#)より、**2024年9月20日（金）までに**御回答ください。



SDGsに関する
アンケートフォーム

【問合せ先】シティネット横浜プロジェクトオフィス(CYO) ki-citynet@city.yokohama.jp

1. シティネット韓国視察団のSDGsをテーマとした横浜研修実施

2024年7月24日から27日にかけて、シティネット事務局、CYOと横浜市の共同事業として、韓国からの視察団が横浜市を訪問しました。視察団は、シティネット事務局及びシティネット韓国会員からソウル特別市、釜山市、水原市、鍾路区、東大門区、道峰区、ソウル研究所、ソウルデジタル財団、ソウル観光公社が参加し、計12名のメンバーが来日しました。今回の視察は、①横浜と韓国のシティネット会員間でSDGsに関する学習交流を促進すること、②行政、市民および民間セクターの参画、持続可能性に焦点を当てたSDGsに関する優良事例を紹介すること、③SDGsの推進に向けた行動計画を策定すること、④現地視察を通じて横浜におけるSDGsに基づく様々な実践について学ぶことを目的として行われました。



横浜市みなとみらい21地区での集合写真

テーマ別セッション

今回の視察団のプログラムには、様々なテーマ別セッションと3つの現地訪問が含まれていました。プログラムは、横浜市国際局富岡部長の歓迎の挨拶で始まり、続いて、国際局グローバルネットワーク推進課の野村係長が、横浜市の概要、横浜市と韓国の都市との友好関係について紹介しました。2日間にわたって行われたテーマ別セッションでは、官民連携（PPP）、高齢化社会、脱炭素、SDGs及び自発的自治体レビュー（VLR）等、幅広いテーマについて横浜市等からの知見や情報が共有されました。最終セッションでは参加者によるSDGs推進に向けた行動計画の作成や、それぞれの発表を通じた活発な意見交換が行われました。

まずPPPセッションでは、横浜市政策経営局共創推進課の巽係長が横浜市のPPP推進に係る制度設計や積極的な取り組みについて説明しました。特に「共創フロント」の設立や「サウンディング型市場調査」の活用など、民間や市場から幅広いアイデアや意見を募り、SDGsの課題解決に向けた協働を促す独自の仕組みが紹介されました。その後、横浜市国際局グローバルネットワーク推進課の三上係長より、みなとみらい21の開発を中心とした横浜の都市開発や2011年から横浜市が展開している公民連携による国際技術協力であるY-PORT（Yokohama

Partnership Of Resources and Technologies) 事業についての説明があり、セブ市やダナン市等との都市間協力及び市内中小企業が有する技術を活用した海外都市の課題解決支援事業について紹介がありました。続いて高齢化社会セッションでは、**横浜市健康福祉局高齢健康福祉課の鴨野課長**より、**横浜型地域包括ケアシステム**の推進について説明があり、高齢者の福祉や健康に関する相談や支援を地域で包括的に提供するケアプラザの取り組み等が紹介されました。



国際局富岡部長による歓迎の挨拶



高齢化社会セッション



参加者との活発なQAセッション

また、VLRセッションでは、**公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）の片岡氏**がVLRの概要や世界的な動向について説明し、また**CYOの山腰課長**からは横浜市におけるVLRの取り組みについて紹介しました。最後のセッションでは、**世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）の田邊氏**が、TDLCの取り組みに関する説明とともにSDGsに関する日本の優良事例を紹介し、世界的な都市課題解決に資する知見や経験を共有することの重要性を指摘しました。各セッションの最後には、参加者から講師に対して熱心に質問する様子が見られました。例えば、高齢化に関するセッションでは、高齢化が韓国と日本の共通の大きな課題であることを背景に様々な議論が交わされ、その中でも「**誰一人取り残さない**」というSDGsの原則をどのように高齢化政策に適用していくかという点について、積極的な意見交換が見られました。横浜市は、例えば介護予防や健康づくりに関するイベントの企画だけで推し進めても、それらのイベントに関心がなく、参加しない方は裨益対象になりづらいという点を指摘し、高齢者が頻繁に利用するお店などとも連携しながら、可能な限り高齢者が生活の延長線の中で公共のサービスを活用してもらえるよう工夫をすることが肝要である、と述べました。またVLRのセッションでは、横浜市の具体的なVLRの進め方や位置づけについての質問があり、横浜市はSDGsの視点を市の総合計画である横浜市中期4か年計画に組み込んでおり、計画の進捗状況モニタリングにおいてSDGsの枠組みを活用してレビューしている点について説明がなされました。

さらに、脱炭素対策に関するセッションでは、横浜市と参加都市の代表が登壇し、それぞれの脱炭素に向けた優良事例を紹介しました。横浜市からは**脱炭素・GREEN×EXPO推進局の竹ノ内係長**が、町内会や行政を通じた市民の協力によって廃棄物や温室効果ガス排出量の削減につながった事例について紹介しました。ソウル特別市は、老朽化した建物の脱炭素化とエネルギー効率化を支援する「**グリーンリモデリングプロジェクト**」について説明しました。釜山市からは、徒歩や自転車で15分以内にあらゆる必要なサービスが利用できる「**15分都市**」構想に基づく開発政策が紹介されました。水原市からは、温室効果ガスの排出量を可視化し、市民に削減を促す独自のアプリケーション「**E-Keeper**」を紹介しました。最後に東大門区から、コーヒー残渣のリサイクルや公共イベントでの再利用可能な食器の使用促進など、民間および学術セクターと連携した脱炭素化の取り組みが説明されました。各都市



ソウル特別市（左上）、釜山市（右上）、水原市（左下）、東大門区（右下）の代表者による発表

の発表は斬新で知見に富んでおり、参加者はそれぞれの脱炭素政策に感銘を受けている様子でした。

現地視察

視察団は、プログラムの一環として3か所の現地視察を行いました。最初に訪問したのは、みなとみらい21地区（MM21地区）に**高効率地域冷暖房システム**を提供する**みなとみらい21熱供給株式会社（MM21DHC）**です。MM21DHCは、1986年の設立以来、地域冷暖房システムの供給を通じてMM21地区の発展を支えてきました。地区と会社の発展に伴い、MM21DHCの供給エリアは販売熱量と単一エリアとしての供給床面積で日本最大の熱供給エリアとなっています。MM21DHCは、毎年最新設備への投資と導入を行い、エネルギー消費効率（COP）を向上させるなど、脱炭素化にも取り組んでいます。視察団は工場内の設備を視察し、地域冷暖房システムや脱炭素化の取り組みについて学びました。



MM21 DHCの工場見学の様子



ヨコハマSDGsデザインセンターでのワークショップの様子

また、視察団は横浜市と民間が共同で設立・運営する**ヨコハマSDGsデザインセンター**を訪問しました。同センターは、SDGs達成に向けて、市内外の多様な主体のSDGsに関するニーズやシーズを結びつける役割を担っており、横浜市がSDGsに取り組む企業・団体を認証し、入札や資金、アドバイザーサービスなどさまざまな特典を提供する「**Y-SDGs**」**認証制度**についての説明も行われました。また視察団は、同センターで開催された木製ストロー作りのワークショップにも参加しました。このワークショップは、SDGsに関する市民の意識を高めるために開催されており、参加者はSDGs達成に向けて市民の意識を高めることの重要性を再確認しました。

さらに、視察団は横浜市の中心部、みなとみらい21地区にある**横浜ランドマークタワー**を視察、高さ273メートルの展望台から横浜の景色を楽しみながら、都市開発について学びました。



ヨコハマSDGsデザインセンターにて手作り木製ストローを持って記念撮影



横浜ランドマークタワー視察

ハイライト

7月25日に、視察団は**横浜市佐藤副市長**を表敬訪問しました。副市長は今回の横浜市への訪問と、横浜市と韓国のシティネット会員との長年にわたる友好関係に対し、感謝の意を表しました。また、SDGsの達成には国や地域を超えた連携と協力が不可欠であり、横浜市は海外の都市とのネットワーク作りにおいて重要な役割を果たしていると述べました。視察団も、横浜市への訪問プログラムの運営やおもてなしに対する感謝の意を示し、横浜市への深い敬意を表明しました。両者は、今後も横浜市と韓国のシティネット会員間での継続的な協力や知見共有を進めることを確認し、表敬訪問は穏やかな雰囲気の中で終了しました。



表敬訪問での集合写真
佐藤副市長を囲んで（中央）

プログラムの最後には、参加者は今回学んだ知見や優良事例を参考に、SDGsの取組みに関する行動計画を作成しました。各都市で取り入れたい優良事例をリストアップし、その実践によって得られるメリットと、解決すべき課題が発表され、活発な意見交換が行われました。参加者の1人は、公共工事の入札にSDGsの視点を取り入れた横浜市の「Y-SDGs」認証制度に言及し、同様の取組みは韓国の都市で民間企業がSDGsに取り組む大きな動機になるだろうと指摘しました。また、高齢化問題への対応として、高齢者同士の相互学習を通じた高齢者デジタル教育や、高齢者の社会貢献の機会創出についても意見交換を行いました。それ以外にも、エネルギー消費を見える化するためのアプリケーションの活用や、廃棄物の分別を支援するAIチャットボットの活用など、デジタル技術を活用した都市課題の解決についても意見が寄せられました。

充実した議論の後には閉会式が行われ、**CYOの栗田所長**による閉会の辞でプログラムを締めくくりました。栗田所長は視察団の訪問に対する謝意を表明し、シティネットの連携と協力の更なる発展への期待を述べました。最後には栗田所長から参加者全員にプログラム修了証が渡されました。猛暑の中での開催にも関わらず、4日間にわたって様々な都市課題について情報共有があり、参加者にとって大きな学びが得られたプログラムとなりました。



各参加者からのアクションプランの共有



閉会式

2. 台湾桃園市視察団の受入れ

7月16日、**桃園市政府スマートシティ・コミュニティ開発委員会**の視察団4名が横浜市を訪問しました。今回

は、桃園市のVLRの更なる最適化とガバナンス計画の管理能力向上に向けて、横浜市の推進するSDGsに係る活動やVLRについて学び、持続可能な社会の構築において国際協力と官民パートナーシップを強化する方法を理解することを目的とした訪問でした。

VLRに関するセッションでは、IGESの**オルティスモヤ博士**がVLRの概要とその重要性、そして世界的な動向について説明し、SDGsを政策に組み込むことの重要性や、持続可能性に関する世界的な対話におけるデータの活用について強調しました。続いて、CYOから横浜市のSDGsやVLRに係る取組みについて説明しました。参加者からは、優先目標の選定プロセス、市庁内の他部署とのコミュニケーション、取組みの具体的な評価方法等について、積極的に質問が寄せられました。

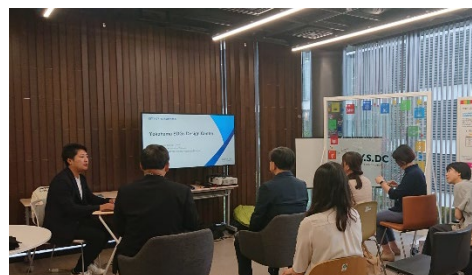
また、視察団は**ヨコハマSDGsデザインセンター**を訪問し、同センターの**コーディネーターである石塚氏**から、横浜市SDGs認証制度（Y-SDGs）やウッドストロープロジェクトなど、民間企業や市民を巻き込んだSDGsの取組みについて説明を受けました。視察団はY-SDGsの認証制度に強い関心を示し、民間企業の関心を集め、効果的に推進している点等について質問しました。石塚氏は、広報支援や入札でのポイント加算などの具体的なメリットを提供することで、徐々に民間企業の関心を引き、広く認知されるようになった旨の説明がありました。今回の訪問は、桃園市政府と横浜市にとって、持続可能な都市開発を推進するために、市民や民間企業の協力をいかに得るかについて話し合う貴重な機会となりました。



IGESによるVLRに関する
プレゼンテーション



桃園市視察団と記念撮影



ヨコハマSDGsデザインセンター訪問

〒220-0012 横浜市区西みなとみらい1-1-1 横浜市協力センター6階

TEL: 045-221-1214

E-mail: citynetyokohama@gmail.com



CITYNET Yokohama Project Office
supports the SDGs.